

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>・まちづくりについて まちづくりを進めていく上で、最も大切にしていることは何か。</p>	<p>〔市長〕 大切にしていることは、対話をしっかりやっていくこと。皆様のご意見・ご要望をしっかりと聞いていく。市に聞いても返事がない、応答が悪いということが今まであったと思う。例えば、こういう事情で難しい、これはこのくらいの時期に進めることができるということなどを市民の皆さんに説明していくことが大事だと思っている。まちづくりといっても、理想通りに進めることは難しいかもしれないが、より多くの意見を聞くことでより良いまちづくりができる。丁寧に聞くことが大事だということを職員にも話している。</p>	市民局	地域政策課
2	<p>(1) 武蔵塚公園の整備について 平成2年に100周年を記念して今の公園に改修された。当時の新聞記事では、公園の魅力を高めるために、交通、ブロンズ像、トイレの整備のほか、将来的には資料館等の併設などを検討するとなっていた。以前、公園の整備について要望書を出し竹垣の問題などいくつか解決はしたが、体の不自由な方も来られるため、墓に上がる階段をスロープにしてもらいたい。 また、東側の通路が狭く、車の通行でサイドミラーが引っかかることがある。通行量も多く、大型の車の通行は不便なので、現地を見ていただき1m引っ込めるなどの対応をしていただきたい。また、五輪書の像の前に案内板があるものの、他はないので案内板を作って欲しい。</p>	<p>〔市長〕 武蔵塚公園の整備は重要と思っている。宮本武蔵の五輪書は世界的にも有名で、霊巖洞は 不便でも多くの方が訪れる場所である。武蔵塚公園も大事な場所であるので、位置づけをしっかりとしていく。地震からの復興で整備は十分ではないかもしれないが、今後段階的にさせていただきたいと思っている。観光面であれば、前の生垣のところにバスを少し駐車できるようにして欲しいなどの要望をいただいているが、現実的に出来ることから一歩ずつ取り組みたい。</p> <p>〔北部土木センター所長〕 スロープの件、東側の通路に歩道がなく狭いということ、案内板の設置については、後日、担当者から連絡をするので詳細について聞かせていただきたい。</p> <p>-----</p> <p>【北部土木センター河川公園整備課 追記】 H30.7.30に現地にて要望者と立会いし要望の内容を確認。 ・スロープの件 (要望内容) 宮本武蔵の墓に上がる階段の横に車いすに対応できるスロープを設置してほしい。 (回答) 車いすに対応できるスロープ等の設置を検討していきたい。</p> <p>・東側通路(道路)の件 (要望内容) 道路(市道)の幅員が狭く車両の離合ができないため、道路に接する公園内に遊歩道を設け車が離合する際に遊歩道の一部を利用し離合できるようにしてほしい。 (回答) 公園内に離合できるスペースを設置するために関係機関と協議していく。</p> <p>・案内板の件 (要望内容) 公園内の施設がわかるような案内板を設置してほしい。 (回答) 設置を検討していく。</p> <p>【北部土木センター道路課 追記】 一般的に、生活道路等における拡幅等の整備については、用地の提供が図られた箇所から随時工事を実施している状況である。地域要望への対応については今後も地域の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。</p>	都市建設局	北部土木センター

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>(2) 武蔵顕彰祭のあり方について 5月19日が宮本武蔵の命日とされているが、今年は5月13日に顕彰祭を開催した。これは、6校区の行事である。市民の集いがなくなったので、6校区の行事としては顕彰祭だけになってしまった。顕彰祭については、寄付金と市の補助金でまかなっており、節約して頑張っている。北九州市小倉では、武蔵小次郎祭があつているが、市長が先頭に立って盛大にされているようである。ぜひ、熊本の顕彰祭についても、市が音頭をとってやってくれないだろうか。</p>	<p>〔市長〕 いろいろな地域でいろんな行事があつており、市は地域でやっているものに支援をしていきたいと思つている。ただ、全部を行政でとはいかないため、まちづくりセンターの地域担当職員と協力しながら、民間での支援を仰いだり、その枠組みを作つていくということも大事だと思う。官民の連携が必要だと思つている。 北九州市小倉の件についても、北九州市長とそういう話をしていきたい。他の地域と歴史的なつながりのPRをしていくことも大事であると思ふ。さらにはそれが九州全体のPRにつながるものだと考えている。</p>	北区役所	龍田まちづくりセンター
3	<p>(1) 三光団地～ピオトープ間の通学路、生活道路の件 都市建設局や北部土木センターにこれまで話してきた件である。道路整備について、地権者18名の同意を得て、寄付をするとの了解を得ている。だが、熊本地震が起きて以降、なかなか進んでいない状況。今年6月に北部土木センターの方が来て、調査を始めるとの説明があつた。整備費も検討したいとのことで自治協議会の会合で説明いただいたところ。三光団地には250世帯あり、子どもたち約45名が通学しているが、北バイパスに下りて、また登っていかなくてはならないため、この400mの里道を整備していただきたい。</p>	<p>〔市長〕 調査を行っているということなので、北部土木センターから説明を行う。</p> <p>〔北部土木センター所長〕 5年前に里道の拡幅工事の要望をいただいている。平成25年の4月には里道拡幅工事の要望書が提出され、平成30年6月16日までに6回の地元説明会を行っている。平成30年6月16日の地元説明会では、小学校長も来られ、幅広い方からさまざまな意見をいただいた。今年度は、現地測量、予備設計業務委託の発注を予定しており、業務委託は8月末から来年の1月を予定している。これがまとまったら、7回目の地元説明会を開催し、地域の方の意見を業務に反映させようと思つている。地元の方の意見を聞きながら進めていくので、よろしく願ひしたい。</p> <p>-----</p> <p>【北部土木センター道路課 追記（進捗状況）】 測量予備設計業務委託入札完了（委託期間 H30.8.27～H31.1.9）</p>	都市建設局	北部土木センター
	<p>(2) 龍田西校区地域コミュニティセンターの建設について 公民館よりもコミセンの建設をして、そこをみんなで使いたいと思ひ、同意を得ている。龍田の森保育園の所有者の方が持っている土地を寄附していいという話をいただいているため、そこを整備してコミセンを建設したいと考えている。</p>	<p>〔市長〕 各校区のコミセンは順次整備している。必要性については、地域住民の意見を集約し、地域全体で建設場所を決定し、コミセン審査委員会での審査を経て建設を決定する。龍田の森保育園の土地所有者の方から、寄付をして建設していいという話を聞いているが、そこは斜面になっており、駐車場の入り口ということもあるためコミセンの設置場所としては厳しいと聞いている。地域担当職員と話をしていただき、候補地も含めて地域で話して住民の合意を得ていただくよう願ひしたい。</p>	市民局	地域活動推進課

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>まずは、まちづくりセンターの設置に感謝している。ごみの問題など、ワンストップで地域担当職員に解決していただき、大変感謝している。</p> <p>(1) 楠小学校から南側に行く道路の白線が消えている。8月中に解決していただけると聞いているが、消えないように濃くお願いしたい。</p>	<p>〔市長〕 白線についてはもうしばらくかかるようだが、必ず実施する。地域で消えかけた白線等あれば、安全性を保つということが大事だと思う。</p> <p>-----</p> <p>【北部土木センター道路課 追記】 平成30年8月2日 区画線引き直し完了済</p>	都市建設局	北部土木センター
4	<p>2) 楠校区4町内は440世帯くらいしかない。人口が増える要素はないが、団地に空きがたくさんあるため、団地を人でいっぱいにして欲しい。</p>	<p>〔市長〕 市営団地は、一定のルールで募集しているが、人気のあるなしのばらつきがあるため、ニーズのマッチングをしていきたい。老・壮・青の世代のバランスが取れば、皆が活躍できる地域になると思う。団地の問題も含め、いろいろ検討していきたいと思うのでご理解いただきたい。</p> <p>-----</p> <p>【住宅課 追記】 同町内の市営団地の現在の入居率は80.6% (332/412戸) でご意見のとおり空室も存在している。現在、熊本地震被災世帯の中で、公営住宅の入居希望をされている世帯を優先して入居の案内を行っているところであり、今後は、被災世帯の住まいの確保の目的が立ち次第、定期募集を実施する予定のため、入居者が増加すると見込んでいる。</p>	都市建設局	住宅課
5	<p>・新市民病院の診療科について 私たちの子どもは熊本市市民病院の小児循環器科内科の患者である。新病院の再建計画に、小児循環器内科が小児科に統合されると明記されているのを知り、大きな不安を覚えた。熊本市市民病院は、県内では唯一子どもの心臓病手術ができる病院であり、手術ができる病院は九州にも数ヶ所しかないため、県内外問わず多くの命がここで救われている。手術前後の診断や治療、生涯に亘る闘病を支えていただいているのは、小児循環器内科の先生方である。私たち患者家族にとって、市民病院の小児循環器内科は小児心臓外科とともに命の砦であり、なくてはならない診療科。</p> <p>7月18日に院長と話をする機会をいただいた。「病院としても、小児循環器内科は重要な部署だと考えており、小児科との統合は小児循環器内科の診療を発展充実させることを目的としている」と話された。しかし、その一方で、統合後の診療体制は不足する小児循環器内科医の重労働を軽減するために、専門医でない小児科医が研修を受け、ある程度は診られる医師を増やし、診療を協力し合うとのことだった。科の発展を目指すとして、専門医でない医師が診療に当たるというのは、矛盾しており、患者家族としては納得できない。先生たちの重労働は何とかして欲しいと私たちも願っているが、九州の小児循環器内科医療における熊本市市民病院の重要な役割からしても、ある程度診られる医師を増やして、医療の質を落とすような方法でなく、専門の医師の数を増やして育成や技術向上もしながら、真の発展充実を目指して欲しい。将来にわたり、質の高い医療を保障して欲しい。</p> <p>総合周産期医療として、必要な科は残すという方針で診療科が再編されたということだが、この総合周産期医療に必要な不可欠な診療科である小児循環器内科が統合され、独立した科でなくなるのが全く理解できない。科がなくなってしまえば、将来的に、小児循環器内科専門医や専門スタッフの安定的な確保、育成は保障されず、心疾患のある子どもたちを今までのように質の高い医療で救ってもらえなくなるのではないかと。統合の理由を聞かせて欲しい。</p> <p>先日院長との会談では、私たちの要望に対し、独立した科として存続するよう前向きに検討するとの回答をいただいた。市長としての意見を聞かせていただきたい。</p>	<p>〔市長〕 病院へ要望をされていることは、私もテレビで拝見した。小児循環器内科を含めて、市民病院では周産期母子医療を充実させていこうと今までも取り組んできた。震災後、総合的に見直しをしていく中で、小児循環器内科を含めた小児科の中で、医師確保の問題も含めて統合化を考えたのだらうと思う。我々としても、市民病院で、今までかかっていた人が不安にならないようにすることは非常に重要だと思っている。専門医を確保することが大前提であり、その科を標榜したところで、その科の先生がいなければ機能しない。熊本大学医学部附属病院と連携を図っているが、医師確保の問題も今後出てくると思う。12月に人事等の体制づくりがなされる中で、病院の方にも小児循環器内科のニーズが高いためしっかり検討するよう指示している。実際の診療科については、人の問題と専門性を保てるように方針を整理しているところなので、もうしばらく時間をいただきたい。ご要望については受け取り、市民病院に指示をして協議させていただきたい。</p> <p>ただ、市民病院は周産期母子医療に力を入れていくのは間違いない。熊本都市圏の他の病院との連携も非常に重要。NICUもそうであるが、他の病院でできないことを市民病院でやる。医師の人事も関係してくるので調整させていただきたい。子どもさんも含め皆さんが安心して医療を受けられる体制を作っていく。</p>	病院局	新病院開設課

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
6	<p>(1) コミュニティバスについて 政令指定都市になる際にいろいろな約束事があった。区割り審議会や総務部会だとか、私はほとんど出席して、請願書・陳情書を出させていただいている。前市長は区役所を植木に持って行く以上、コミュニティバスを設けると約束された。ところが、コミュニティバスの路線の説明会に行ったところ、清水出張所に行くバスも植木に行くバスもないとのこと。何回も交通政策課に相談したが、交通政策課の方も何もできなかったのだろう、そのまま運営された。龍田地区、武蔵地区は走っていないのではないかと。見たことがない。</p> <p>龍田公民館での講座には1,000人以上のたくさんの方が通っている。朝10時からと午後1時半からの講座に間に合うようなスケジュールのバスを通せばいいのではないかと話したが、一向に反映されないまま、今に至りバスはなくなっているのではないかと。確かに、地震があり、水害でもお世話になり、大変だと思うが、産交バスや電鉄バスに路線をお願いしたり、20人乗りくらいのマイクロバスで辺鄙な地域から役所へ向かわせたりしてはどうか。また、植木に行くのに4年経ってもバスの便もないため、車がない方、運転できない方はどうしたらいいか。とにかく約束されたことは守っていただきたい。</p> <p>バスに乗って買い物に行ける人、涼みに行ける人は幸せかもしれない。区役所にどうしても行きたい、相談に行きたい人は北区役所にどうやって行くのか。せめて、ここを出発拠点にして、月曜・金曜だけ、午前1便・午後1便だけ、直行バスを走らせるなどして欲しい。龍田、弓削は、陸の孤島になってしまう。買い物通い、病院通い、今後10年間でどう考えているか。</p>	<p>〔市長〕 政令指定都市になるまでに、区役所の場所やコミュニティバスについて検討があったと聞いている。コミュニティバスについては、条件があり、利用率との兼ね合いやニーズとマッチしているか、していなければ廃止をするということでスタートしたと聞いている。現状でも、コミュニティバスを含め全体、民間のバス事業を含め、公共交通のあり方全体について検討をさせていただいているところ。交通不便地域の足をどう確保するか、病院や買い物や公共施設、生涯学習については、免許を返納された方の公共交通の需用は増してくると思うので今後も引き続き検討していく。すぐにコミュニティバスを復活するとは今ここで言えないが、皆さんの声を受け、ニーズのある場所・時間で走らせていくことが重要と思っている。</p> <p>-----</p> <p>【交通政策課 追記】 ・龍田公民館等へのアクセスについて 公共交通基本条例に基づき、公共交通空白地域や不便地域におけるコミュニティ交通として、デマンド型乗合タクシーを運行している。 龍田近辺では平成29年5月から弓削乗合タクシーを運行し、光の森駅や旧57号線沿いのバス停に接続している。路線バス等と乗合タクシーを組み合わせることで、龍田公民館等へのアクセスが可能なので、是非ご活用いただきたい。</p> <p>・公共交通の取組の方向性 本市では、多核連携のまちづくりの実現に向け、中心市街地と地域拠点等を結ぶ8方面を基幹公共交通軸とし、「基幹公共交通軸の輸送力・速達性の向上、定時性の確保」、「分かりやすく効率的なバス路線網の構築」、「コミュニティ交通の導入」等により公共交通ネットワークの形成を推進している。 今後、これらを推進することで、公共交通により円滑に移動することが可能な地域社会の実現を目指す。</p>	都市建設局	交通政策課
	<p>(2) さくらカードについて 最近の新聞で70歳以上のバスの優待券（さくらカード）が廃止になるとあった。本当にそうなるのか。</p>	<p>〔市長〕 さくらカードについては、外部有識者を中心に「高齢者及び障がい者の社会促進等に関する検討会」を設置し、検討しているところ。何でも廃止するというのではなく、さまざまな視点から高齢者・障がい者の方の外出や社会参加につなげていくかを考え検討しているところ。なくすのが前提というわけではなく、検討会で考え、出されたご意見を踏まえた上で進めていく。</p>	健康福祉局	健康福祉政策課
	<p>(3) 北区の地震計について 北区では、地震計が植木だけにあるが、この地震計はほとんど役に立たないと思う。植木にあっても、龍田の人は中央区を参考にさせてもらっている。龍田まちづくりセンターや武蔵公園周辺に地震計の設置をお願いする。</p>	<p>【危機管理防災総室 記載】 地震計は、地震発生時の迅速かつ正確な震度情報を収集し、防災関係機関の初動体制の早期確立を図ることを目的として設置されており、観測地点での揺れ状況（地震動）を計測している。国によれば、震度計の配置基準を市区町村ごとに少なくとも1箇所は整備することとしており、本市においては、春日、佐土原、大江、城南、富合、植木地域の6箇所を設置しており、市域のバランスも図れていることから、新たな震度計の増設については予定していない。</p>	政策局	危機管理防災総室

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
7	<p>・弓削校区の避難場所について                      今の熊本市全体の避難場所は257箇所が指定されているが、弓削校区の避難場所は弓削小学校一箇所しかない。弓削校区は各町内の約30%が高齢者である。70・80・90代の方が弓削小学校まで避難するのは大変である。2年前の地震のときは老人憩いの家に高齢者を避難させた。また車の方は荒瀬公園に避難させた。公園は2200㎡ほどあり、車50台ほどが入るところである。しかし、上立田公園・老人憩いの家はできてから30～40年経っており、20数名の方が食事をするのも窮屈になる場所である。私たちが地域コミュニティを強化し、そのことで医療費の削減を目指して取り組んでいる。自助（自分でできることは自分です）、共助（みんなでできることはみんなです）を大事にしているが、公助という、熊本市の中心地にたくさんお金を使って、地方にはあまり政策的なことがないように感じる。災害が起きたときに、弓削小学校だけでなく、各町内にある公民館を避難所として指定していただきたい。弓削小学校で6町内分の人間は対応できない。若い方は車で弓削小学校まで行けるが、高齢者は行くことができない。また、老人憩いの家を整備し大きくして避難所として指定していただきたい。ハードの面を整備していただければ、私たちはソフトの面では積極的に活動していく。</p>	<p>〔市長〕                      指定避難所はもともと171箇所だったが、熊本地震があった時に被災し、指定避難所の33施設（うち小中高校体育館が25施設）が使えなくなった。実際には257箇所開設して何とかしのいだのだが、指定避難所に避難されたのは全体の3割程度。他の方は車中泊が多かった。高齢の方で、在宅で避難された方・軒先で避難された方もいる。避難所は安全できちんと整備されている場所かどうか確認したうえで指定しなければいけない。全体のことを考えながら避難施設のあり方をどうするか考えていかなければならない。皆さんにお願いしたいことは、どこに避難をして、福祉避難所がどこにあるのか、誰が連れて行くのかなどを確認しておいていただきたい。ハード面については避難所が1箇所しかないことが妥当かどうかも含めて検討させていただきたい。このように皆さんと対話することで皆さんの不安を解消し、避難行動をどうするかというのを皆さんと一緒に考えていきたい。</p> <p>-----</p> <p>【健康福祉政策課 追記】                      災害時における高齢者等要配慮者の避難行動支援については、まずは地域での支援（共助）が必要となる。自助としては、自分でも安全対策を講じる必要があり、地域との関わりが今後重要となる。また、福祉避難所は、被災者が直接避難する場所ではなく、指定避難所での生活に支障がある要配慮者が二次的に避難する場所であることをご理解いただきたい。ホームページの「福祉避難所等の設置運営マニュアル（平成30年8月改定）」を参照いただきたい。</p>	<p>政策局 健康福祉局 健康福祉局</p>	<p>危機管理防災総室 高齡介護福祉課 健康福祉政策課</p>
8	<p>(1) 都市計画道路の再検討について                      平成17年に都市計画道路の整備は中止になり、そのせいか、北バイパス・西回り道路が開通し、東バイパスまで流れる車で龍田地区まで渋滞している。また、北バイパスから県道337号線（熊本菊陽線）に通じる道路も渋滞する。そのような状況なので、小碓橋から熊本北高校までの都市計画道路の再検討をお願いしたい。</p> <p>(2) 龍田西小学校の通学路について                      三光団地～ピオトーブ間の通学路についての説明会は何回もやっているようだが、工程表を出していただきたい。地権者はみんな印鑑を押しているのに、長引くと心変わりしてしまう。即急をお願いしたい。</p>	<p>〔市長〕                      都市計画道路の整備、工程表の件については土木センター所長から。</p> <p>〔北部土木センター所長〕                      都市計画道路廃止については、小碓清水楡木線のことだと思うが、担当部署に再検討の要望があったことをつないでおく。                      通学路の件については、今年度は測量・用地設定を計画しており、引き続き様々な課題解決に向けて地元の方と一緒に協議を行いながら進めていきたい。</p> <p>-----</p> <p>【都市政策課 追記】                      本市では、2006年度(平成18年度)に第1回目の都市計画道路の見直しを行っており、ご意見のあった都市計画道路(小碓清水楡木線)は、新南部四方寄線(北バイパス)の整備による代替機能の確保、並びに、自然環境保全の観点から廃止している。                      今後、本格的に到来する人口減少・超高齢社会により、様々な社会情勢の変化などが予想されることから、道路整備はより一層効率的な実施を検討していく必要がある。                      効率的な道路整備に向けては、熊本都市圏全体の観点から、今後の道路整備等による交通実態を踏まえて検討していきたいと考えている。</p>	<p>都市建設局 都市建設局</p>	<p>都市政策課 北部土木センター</p>

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
9	<p>(1) さくらカードについて                      新聞でさくらカードの件が取り上げてあり気になった。先ほどの回答で、なくす方向ではないとおっしゃってはいた。予算の問題もあると思うが、さくらカードの使用により気軽に大型スーパーに行くことができ、消費につながっていく。免許証返納を推進しているということだが、それにはさくらカードの存続が必要になってくる。バスで気軽に買い物に行ける環境が必要だと思うので存続を強く希望する。さくらカードで出向き、ボランティアや福祉関係の活動をしている方もいる。さくらカードがなくなれば、高額な交通費でそれできなくなってしまう。</p> <p>(2) 市政だよりに、熊本の介護保険料は上がってきており、全国で2位の高さだとあった。予防や健康診断を心掛けているとあったが、高齢者にとって健康で長生きしていくのは大切なことだと思う。</p>	<p>〔市長〕                      さくらカードについては先ほどのおり（No.7（2）参照）。高齢者や障がい者の方がいかに社会参加をしやすくなるかが重要。一方免許返納もそうだが、利用されていない実態も含めて考えていく必要がある。バス事業者にも協力してもらわなければならないので、誰がどのくらい負担していくのか考えなければならない。社会参加に積極的な方を増やすためにも、移動を公共交通に転換してもらうためにも考えていきたい。                      私としては、歩いて健康づくりにつながるまちづくりをしなければいけないと考えている。できるだけ歩いて足腰を鍛えてもらうことで健康づくりや病気の予防につながり、介護保険料も減っていくというような好循環につなげたい。</p>	健康福祉局	健康福祉政策課
	<p>(3) 空き地・空き家対策について                      地震後に空き地・空き家が増えているが、事件・事故につながりやすいと思う。このことについて何か考えていらっしゃるか。</p>	<p>〔市長〕                      空き地空き家については、都市建設局にて対策のチームを作っている。歩いて見回ったり、まちづくりセンターの方でも話は聞いたりしているので、これから対策を考えていく。空き家等について何か情報があればまちづくりセンターに情報提供をお願いする。</p> <p>-----</p> <p>【建築指導課 追記】                      現在、市内の空家実態調査を行っている最中であり、そのなかで明らかになった危険な空家について、所有者を調査して指導を行っていくとともに、空家問題の予防、管理不全空家の対策、空家の利活用等の具体的施策を検討中である。今年度中に空家等対策計画を策定し、随時、施策を実行に移していく。</p>	都市建設局	建築指導課

No.	ご意見	回答	局	担当課
10	<p>・市庁舎や橋梁の耐震性について 地震で橋がだいぶ壊れた。東京と比べて、熊本は70～80%のエネルギーしか受けられない程度の耐久性のない橋を作っている。今度は市庁舎を建て直すとのことなので、東京の8割の強さしか持たないような建物はつくってほしくない。科学的に決まった70～80%ならわかるが、文献調査で決まった基準である。正しい基準で人の命を守ってほしい。</p>	<p>〔市長〕 公共の建築物も含めて、係数がいろいろある中で、熊本市は地震のリスクも考えて、1.0でなく0.8などであった。リスクを甘く見ているのではないかと思われる部分があると思う。防災の拠点となるような市民病院や市庁舎などは、新耐震の基準で1.5をきちんと満たすものをつくるようにしている。市役所の本庁舎については、耐震性を確認して最新の方法で様々な揺れに対応できるかどうか検査をしていただき、どういう補強をしていけばいいかなど調査をしたところ、震度6強では厳しいという結果がでてきた。建て替えるかどうかということも含めて、内部的に検討させていただいている。</p> <p>熊本地震を経験し、不安を抱えながら指揮をとったり市民の皆さんを守ることはできないと感じたため、庁舎や公共施設がどうあるべきかについてデータに基づいてやっているところである。科学的な根拠を市民の皆様を示しながら行っていく。ただ、すべての建物に耐震診断を行っているわけではない。例えば、耐震性が低い建物からは逃げるなどソフト面も合わせ、防災減災につながるように総合的に考えたい。</p> <p>-----</p> <p>【建築指導課 追記】 建物を建築する際は、建築基準法により地震や積雪、風圧等に対して安全な構造であることが求められており、安全性の検討のために地震力を仮定する必要がある。地震地域係数はその地震力を決める要素のひとつとなっており、国土交通大臣が熊本市は0.9（植木町は0.8）と指定しているところ。 熊本地震を受けて国土交通省国土技術総合政策研究所では「熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会」により調査・分析が行われ、平成28年9月に報告書をまとめられた。これによると「今回の分析の範囲では、地域の被害状況に地震地域係数の影響は確認されなかった」と結論づけられ、そのあり方については「中長期的に検討すべき課題」であると認識されており、現在まで地域地震係数の見直しは行われていない。 本市においてもこの報告内容を受け止め、現時点で地震地域係数の引き上げは考えていないが、国の動きを引き続き注視し、検討を行っていきたいと思う。</p> <p>【技術管理課 追記】 橋梁の耐震設計において用いられる地域別補正係数については、道路橋示方書において、地震の発生確率や強度に応じて熊本市は0.85～1.0と定められている。 このような中、熊本地震を受けて国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会において、その妥当性について調査検討されたところである。 その結果、耐震設計の諸元となる地震動は地域別補正係数を加味した現行基準の設定範囲とほぼ同じであったこと、震度6弱以上を観測した地域において現行基準を適用している1250橋を調べたところ99.7%の橋梁で落橋・倒壊の致命的な被害がないこと、また被害を受けた橋梁についても、橋梁本体ではなく、斜面崩壊や地盤沈下などの下部構造の移動の影響が加わるなど複合的な要因により生じた被害と評価し、地域別補正係数の見直しは行われなかったところである。 本市においてもこの検討結果を踏まえ、現時点で地域別補正係数の引き上げは考えていないが、引き続き国の動きを注視するとともに、橋梁の計画的な維持補修などにより安全性確保を進めてまいりたい。</p>	<p>財政局</p> <p>都市建設局</p> <p>総務局</p>	<p>管財課</p> <p>建築指導課</p> <p>技術管理課</p>

「ドンドン語ろう！ in龍田」 平成30年7月25日 龍田公民館ホール 意見交換内容 参加者：87名

No.	ご意見	回答	局	担当課
11	<p>・エネルギー政策について                      まずは大西市長をほめたい。総合計画は見事だ。ただ、この中にひとつ足りないものがある。アベノミクスの3つのEについて。エネルギーに関することが抜けている。地球温暖化が進んでいるので。</p>	<p>〔市長〕                      総合計画や実施計画については、震災という新たなファクターが含まれている。すべての計画においてPDCAサイクルを進めているところ。環境の部分については、エネルギー政策として、環境工場から出た利益を省エネにつなげるようにということで新たな取り組み・補助を行っている。そのような政策も活用していただきたいと思う。</p>	環境局	環境政策課